

平成27年度自己評価シート（中間評価）

学校名 三次市立吉舎中学校

中期経営目標						
短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当部等	
1 確かな学力						
基礎的・基本的な知識・技能の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の視点をとり入れた授業展開の工夫（可視化・反復）</li> <li>個に応じた指導の工夫（個別対応）</li> </ul>	実力テスト50点以上の生徒の割合（5教科平均）55%以上	1年 A 2年 A 3年 C	1年 85.2% 2年 60.0% 3年 42.4% (1学期実績)	教務部	
		保護者の満足度（アンケート「学力を高める取組をしている」）95%以上	A	100%		
自学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決型の授業の実施</li> <li>家庭学習（予習復習）やワークシートとリンクした授業展開の工夫</li> <li>ノート指導の徹底</li> </ul>	予習・復習を自主的に行っている 予習60%復習70%以上	予習 B 復習 A	予習 56.3% 復習 74.7%		
		ノート評価Aの生徒割合 60%以上	国語 B 社会 C 数学 A 理科 C 英語 B	国語 44.4% 社会 15.7% 数学 64.7% 理科 42.2% 英語 59.0%		
1時間以上家庭で学習できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーティンチェック表の徹底</li> <li>自主学习ノートの指導</li> <li>家庭学習とリンクした授業の実施</li> </ul>	家庭学習1時間以上の生徒の割合（アンケート）65%以上	1年 A 2年 A 3年 B	1年 96.2% 2年 83.3% 3年 54.8%		
		家庭学習の定着における保護者の満足度（アンケート）80%以上	A	89%		

【評価結果の分析】

（知識・技能の定着）

- ・1, 2年とも目標値は上回っている。3年生は, 13ポイント下回っている。

（自学力の育成）

- ・復習については, おおむね定着をしている。予習についてもかなりの生徒が行っている。
- ・予習の仕方がわからない生徒もいる。
- ・A評価ノートは, 教科によって大きく差が出ている。各教科での指導・徹底が必要である。

（家庭学習）

- ・1, 2年とも家庭学習習慣が定着している。3年生の定着が低い2年次（37.6%）から約20ポイント近く増加している。受検を控えている学年としては, 厳しい状況である。

【今後の改善方策】

（知識・技能の定着）

- ・3年生については, 補習及び個別課題を与える等の指導を行い基礎・基本の定着を図る取組を行う。
- ・学力の2極化が顕著な状況である。反復練習とともに課題解決型の授業改善を進めていく。
- ・つまづきの大きな領域については, 各教科の中で補充指導を行う。

（自学力の育成）

- ・自主学习ノートの提出率は約90%と高い状況である。個々の生徒の実態に合わせて, 課題等の指導を行う。
- ・A評価ノート（吉舎アプリノート）の見本として, 生徒のノートを評価し, 意欲付けを行う。

(家庭学習)

- ・3年生の中間層を中心に指導を行う。生徒個々において、日々の取組を評価するとともに自主学習ノートにおける取組方法を丁寧に指導する。
- ・保護者との連携を行い、基本的な生活習慣（起きる時間、寝る時間、学習時間、朝食等）の徹底を図っていく。
- ・長期休業における課題を全生徒にやりきらせるよう職員の体制を整える。

2 豊かな心					
自己肯定感の向上	生徒会委員会活動の活性化	生徒の満足度 (アンケート「活発だ と思う」) 90%以上	1年 B 2年 B 3年 B	1年 84.4% 2年 83.3% 3年 88.2%	生徒指導部
	部活動, ボランティア活動, 体験活動の充実	生徒の自己肯定感 (アンケート「周りか ら認められている」) 60%以上	1年 B 2年 B 3年 A	1年 53.1% 2年 54.6% 3年 64.7%	
	組織的な学級経営 の取組	いじめ認知・解決 (アンケート) 100%	A	100%	
生徒の自己肯定感 (アンケート「よいと ころがある」) 75%以上		1年 C 2年 B 3年 C	1年 50.0% 2年 60.0% 3年 58.1%		
礼節と規範意識の 定着	吉舎中3か条の徹底	生徒アンケート (授業 90%, 生活 90%, 環境 95%以上)	学習 B 生活 B 環境 B	学習 87.8% 生活 81.2% 環境 87.4%	

【評価結果の分析】

(自己肯定感の向上)

- ・「生徒会活動は活発だと思う」という質問に対してどの学年も目標値は下回った。生徒の主体的な活動を十分に企画できていない部分があると考えられる。
- ・「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」という質問に対して、3年生は目標値を超えている。
- ・「いじめ」について、6月にアンケートを実施した。特にいじめの訴えはなかったが、どんな些細なことでも、速やかに複数体制で個別に聞き取りを行なっている。見逃すことなく聞き取り、分かった事実については個別に指導を行った。
- ・「自分には良いところがある」という質問に対して、全学年とも目標値を下回っている。

(礼節と規範意識)

- ・どの領域も学校全体としては、目標値を下回っている。学習の3か条の「着ベル」については全学年目標値を上回った。環境の3か条の「時間を守る」「仲間を大切にする」は2年生、3年生は目標値を上回った。
- ・小中一貫教育の重点としている「あいさつ」「返事」「整理整頓(はきものそろえ等)」は、全学年とも目標値を下回っている。

【今後の改善方策】

(委員会活動活性化)

- ・やはり3年生の意識が高まっていないという課題がある。生徒会執行部や委員長への指導等まだまだ不十分であった。生徒会執行部を中心に月間重点項目を掲げ、生徒が主体となるよう取組を進めていく。9月は「あいさつ」を重点とし、総務委員会、各部活動が玄関前であいさつ運動に取り組んでいる。

- ・ 体育祭では3年生を中心に活発な活動を仕組むことができた。文化祭の発表に向けて生徒の自主性を引き出すよう指導を行う。
- ・ 授業においても自己存在感が感じられるグループ活動を仕組んでいく。
- ・ ボランティア活動の可視化を図るために、参加生徒や活動写真を掲示し、意欲を高めさせる。  
10月7日の町内一斉「クリーン活動」も主体的な活動になるよう工夫するとともにしっかり評価し自己肯定感を高めたい。また、11月19日には、小中合同の「きさ音楽祭」を開催する。(日彰館高等学校も友情出演していただく)中学生は、小学生のモデルとなるように指導し、自信を持たせる。そして、日彰館高校の生徒の姿から目指す高校生像のイメージをしっかり持たせたい。
- ・ 「いじめ」の早期発見・解決に向け定期的なアンケートを実施し、迅速な対応が取れる体制を常に整えておく。
- ・ 年間3回の県立教育センターサテライト講座「学びを支える、つながる学級づくり」講座を実施しており、全職員が統一した学級経営を行う基盤整備を行う。

**(礼節と規範意識)**

- ・ 生徒の意識化を図るために評価を可視化(掲示・学校朝会での表彰等)し、意識付けを図る。
- ・ 挨拶のレベルを生徒会が提示し実践するなど、学校文化として根付くよう仕掛ける。

生徒の活動評価



ノート評価

